

My First Stage

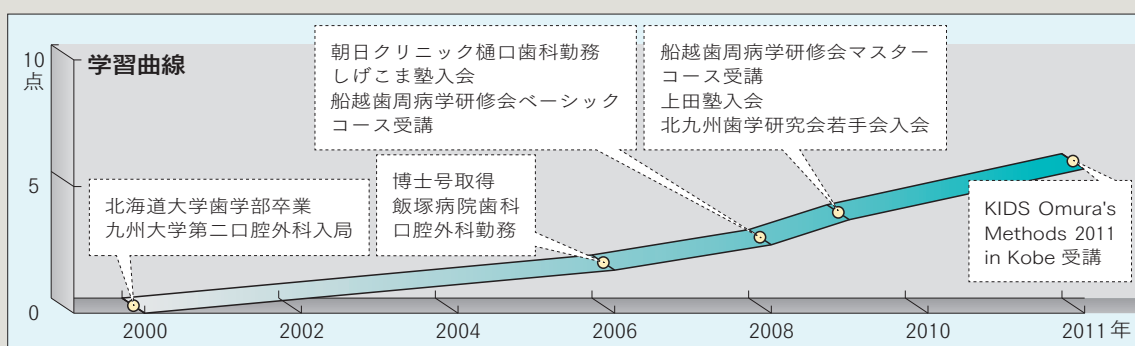
基本治療の各ステップにこだわった審美修復

樋口 惣

キーワード：審美修復，基本治療，プロビジョナルレストレーション

臨床経験

卒後12年目。2000年・北海道大学歯学部卒業後、九州大学第二口腔外科(現口腔顎顔面病態外科顎講座)へ入局。2006年・飯塚病院歯科口腔外科勤務，2008年・朝日クリニック樋口歯科勤務，現在に至る。しげこま塾，上田塾，北九州歯学研究会若手会所属。KIDS コース，船越歯周病学研修会(ベーシック，マスターコース)，Omura's Methods 1年間コース受講。



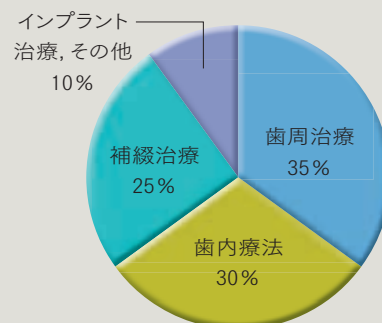
診療方針

歯周治療，歯内療法，支台築造，支台歯形成，印象などそれぞれの基本治療をていねいにかつ確実にいき，1本でも多く自分の歯を保存できるよう努めている。また，患者にわかりやすく安心して治療を受けてもらうため，スタッフ一同患者とのコミュニケーションを大切にしている。

日々の臨床

クリニックは博多駅前のオフィスビル内ということもあり，患者は博多駅周辺に勤務する会社員やOLが多く，子どもの来院はまったくない。高齢者の来院もあるが，ほとんどが院長が古くから診ていた患者である。仕事でなかなか時間がとれない患者が多く，主訴のみの治療を希望されることもあるが，患者とのコミュニケーションのなかで口腔内の健康に関心をもってもらうよう心がけている。

【日常臨床で頻度の多い割合】



企画趣旨

患者の主訴や口腔内状態など、その背景はさまざまであるが、「1歯の治療にこだわること」、それがすべての基本であり、はじめの1歩といえよう。

本欄では、患者の背景を踏まえつつ1歯に対する治療にこだわる若手歯科医師に、どのように診査・診断し治療計画を立て、治療結果を得たのか、その患者と信頼関係を築くまでの過程を自己評価も含め提示いただく。また、師匠や先輩歯科医師からのメッセージもあわせて掲載。

「基本治療にこだわる！」

樋口 惣

So Higuchi

朝日クリニック樋口歯科
連絡先：〒812-0011 福岡県福岡市博多区
博多駅前2-1 朝日ビル4F



初診時の状態



図1a | 図1b

図1a 1は抜髄処置後、コンポジットレジンにより暫間的に歯冠修復されていた。動揺はなかったが、軽度の打診痛を認めた。

図1b 1の破折は歯冠部に局限していた。また歯槽骨の骨折、歯の脱臼、陥入、挺出などは認めなかった。

患者のバックグラウンド

- 患者：33歳，男性。性格は真面目で温厚。
- 主訴：自転車で走行中に転倒し，左上の前歯が折れた。
- 歯科既往歴：受傷後，自宅近所の歯科医院にて1抜

髄処置後，審美性の回復のためコンポジットレジンにて暫間的に歯冠修復処置を施された。

- バックグラウンド：時間的，経済的に問題なし。

診査・診断，治療計画

■どのように診査を進め，診断したか：1は歯冠破折を起こしており，すでに抜髄処置がなされていた。動揺度はI度，軽度の打診痛を認めた。デンタルエックス線写真から歯槽骨の骨折，歯の脱臼，陥入，挺出などの所見は認めなかった。また根尖部周囲の骨吸収像も認めなかった。歯周ポケット検査から歯周病は認めなかった。

- 診査結果および治療計画説明時の患者の反応：1の

歯内療法の可能性，最終補綴はダイレクトボンディングによる修復か，全部被覆冠による修復かを患者と相談したところ，全部被覆冠を希望された。

- 治療の実際：通法に従い，歯周基本治療を行いながら歯内療法を行い，その後，支台築造，印象，補綴物装着を行った。各ステップでいねいかつ確実に治療を行うことを心がけた。



図2 根管充填時のデンタルエックス線写真. AH プラスとガッタパーチャポイントによる根管充填を行った.
 図3a, b ダウエルコアの印象直前の口腔内写真. ポスト部はアンダーカットがないスムーズな面になるよう形成し, 歯肉縁上で概形成を行った.
 図4 ダウエルコアの印象面の写真. 寒天-アルジネート連合印象を行った.

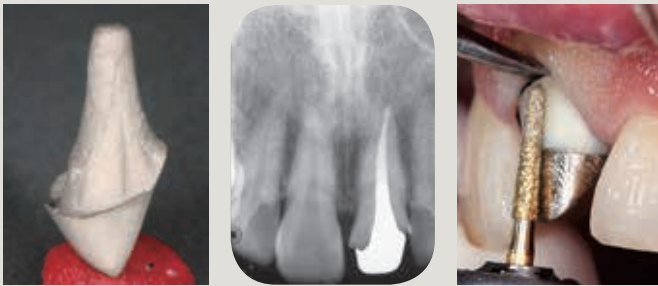


図5 | 図6 | 図7

図5 完成したダウエルコアの写真. 印象面を再現できている.
 図6 ダウエルコア試適時のデンタルエックス線写真. 適合は良好であった.
 図7 3-0絹糸を歯肉縁下に入れ, 歯肉を傷つけないように圧排しながら歯肉縁下にマージンを設定した.



図8a | 図8b

図8a, b 歯肉の反応を観察しながらプロビジョナルレストレーションの形態を何度も調整した.



図9 印象のための二重圧排時の口腔内.
 図10 印象面の写真. 一次コードが印象材に取り込まれた.
 図11 作業模型の写真. 形成限界まで再現されている.
 図12 プロビジョナルレストレーションを印象し, 歯科技工士へサブジンジバルカントウアの形態を伝える.

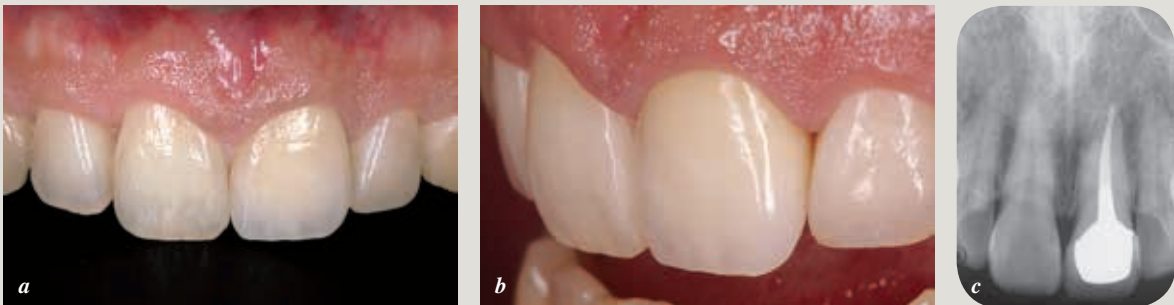


図13a, b 最終補綴物装着時の口腔内写真. セラモメタルクラウンによる修復を行った(技工はエースデンタルラボラトリー・中村正行氏).
 図13c 最終補綴物装着時のデンタルエックス線写真. 適合は良好である.

治療結果の自己評価と患者の様子

■治療結果に対する自己評価：歯周基本治療の手技から、治療途中、1の近心の乳頭部歯肉が初診時より退がってしまい、回復するまで無駄に時間を費やしてしまった。また1の近心隣接面の最終的な形成が多少深くなりすぎたため、生物学的幅径を侵害し歯肉の形態が初診時に比べ変わってしまった。今後注意深く経過観察が必要と思われる。

■患者との信頼関係が築けたと感じた瞬間：患者は当初は治療期間ばかり気にされていたが、「時間はかかってもかまわないから、よいものをつくってください」と

いわれるようになった。各ステップをていねいに確実に行うことに対して理解が得られたと感じた。

■今後の課題：今回、最終補綴が装着されるまで大変時間がかかってしまった。とくにプロビジョナルレストレーションの修正だけで何回来院していただいたかわからない。各ステップをていねいにすることは今後も継続して行っていくべきであるが、今後はていねいかつスピーディに行い、もう少し治療期間が短縮できるよう努めたい。

先輩 Dr からのメッセージ



重田幸司郎

1991年 大阪歯科大学卒業
京都府京都市・先心会玉置歯科診療所勤務
1996年 山口県下関市・重田歯科医院継承
北九州歯学研究会会員、日本審美歯科協会会員

〔診療方針〕

診断や基本的な治療をていねいに積み重ねていくことで、患者の口腔内を長期間安定した状態に改善していく。

▶ケースから感じること

著者も述べているように、治療初期の段階で歯間乳頭を退縮させてしまったため、治療を待つために治療期間が長期化してしまっている。初期治療を行う際はスケーラーを必要以上に深く入れないよう細心の注意を払いながら行わなければならない。またシャープニングできていないスケーラーでスケーリングを行うと、無理に歯石を取ろうとして正常な付着を侵襲してしまいがちである。基本的なことであるが、適切にシャープニングされているスケーラーを用い、適度な力でスケーリング・ルートプレーニングを行わなければならない。そのようにスタッフにも教育しなければならない。

ダウエルコアの印象前の写真、また印象面、完成したダウエルコアの写真やデンタルエックス線写真を見ると、根管形成が少し大きい印象を受ける。今回のケースは抜髄根管であるため、ここまで拡大する必要はなかったのではないだろうか。必要以上に歯質を削除し、残存歯質が薄くなると将来歯根破折が起こる危険がある。また

前歯部の全部被覆冠においては、支台歯の舌側の軸面の高さは補綴物の維持にとって非常に重要である。口蓋側に根管拡大をしすぎると、口蓋側の残存歯質がなくなり、結果的に維持が悪くなってしまう。

▶さらに成長してもらうためのメッセージ

私ごときが「成長」などおこがましいかぎりであるが、先輩という立場であえて述べさせていただく。

著者は卒後から8年間口腔外科に属し、一般歯科臨床を始めて3年目ということを考えて大変頑張っていると思う。現在も会うたびに諸先輩の知識を吸収し、好奇心旺盛にさまざまな歯科の分野を追求している。さらにそれぞれの処置の精度を上げるよう精進してもらいたい。しかし、今後著者がさらに上をめざしたいのであれば、早く何か1つ好きな分野や得意分野をさらに掘り下げて、「その分野では誰にも負けない」くらいの意気込みで頑張っていたいただきたいと思う。

本欄に対するご意見・ご質問は、本誌編集部：edit-q@quint-j.co.jp までお寄せください。